

青年部は健康診断結果に基づく保健指導を本所で行い、受診した部員18名が保健師や栄養士から指導を受けた。

今年は、あらかじめ部員らに1週間の食事の写真を撮ってきてもらい、保健師の方々に食事のバランスをみてもらいながら、保健指導を行った。

部員らは保健師や栄養士の方に食事の取り方等を報告し、アドバイスを聞きながら自分の診断結果と向き合っていた。



驚きの診断結果に生活習慣を改める部員

1月21日、フルーツステーション会議室にて、青森県農林水産部食の安全・安心推進課安心推進グループが生産者8人を対象に「業者の為のGAP推進研修会」をリモートで行った。

講師の(株)AGIC田上隆一代表取締役がGAP概論やGH農場評価について話した。

参加した生産者は、「改めて自分が当たり前の事を出来ていないと感じたので、少しでもGAP取得に向けて意識を改善していきたい。」と感想を述べていた。



GAP取得への道を学ぶ生産者ら

1月26日、弘前市立相馬ふれあい館にて、税務研修会及び第31回JA相馬村農業青色申告会通常総会が開催された。

前半行われた税務研修では住民税や国保税の仕組みについて、講師の薬師山正人税理士が笑いを交えながら会員に話していた。今回の研修のテーマに対して薬師山税理士は「すごくいいテーマを提案してくれたので、これから行う確定申告に上手く役立ててほしい。」と話した。

会員は「毎年開催している薬師山税理士による研修は、面白い話で例え話を交えるので、分かりやすく毎年楽しみにしている。」と述べていた。

その後通常総会が行われ、満江尚樹会長は「本年度の税制改正によるe-tax申告者の増加に伴い、若い方々の申告相談も増えております。本会においても全力でサポートし、電子申告の取り組み強化を図って参りたいと思います。」と抱負を述べていた。



総会の挨拶をする満江会長



研修を受ける38名の会員ら

topics

初のサンふじ
ベトナム向け輸出

04

令和2年産から初めてサンふじのベトナム向け輸出が行われた。1月13日に初めて出荷され、その後2月2日迄に合計3回、567箱が輸出用アイスボックスに入れられ出荷された。

三上悟行販売部長は「これまで有袋ふじでの輸出は行っていたが、ベトナムには無袋と有袋の概念が無い為、無袋のリングの良さをこれだけアピールすることが出来るかがこれからの課題になると思うが、より多くの人に口にしてみたい。」「理解を深めてもらいたい。」と話した。



出荷を目前に検査を行う担当検査員

topics

作文・かべ新聞で
優秀賞受賞

05

1月27日、弘前市立相馬小学校の3年生の児童7名が、「農業ふれあい教室作文・かべ新聞コンクール」にて作文の部、かべ新聞の部で優秀賞を受賞した。

この賞はJA女性組織協議会から贈られたものであり、受賞した児童らは「りんご栽培の楽しさを手く伝えられるように考えるのが大変だったが、この賞を受賞出来てとても嬉しい。」と喜びを語った。



優秀賞を受賞した児童ら

topics

広報お年玉企画
当選者決まる

06

1月29日、広報正月号での豪華商品の抽選会を、本所にて行った。応募は約20件あり、その中から大場勉代表理事組合長と三上隆基専務理事が抽選を行った。

応募して下さったハガキには広報誌の感想やJAに対する意見、要望を書いており、貴重な声を頂くことが出来た。

「これから今回頂いた意見、要望を元に皆様に当JAを更に満足して利用して頂けるよう精進して参ります。」と大場組合長は話した。



A賞の2名のハガキを手にする大場組合長と三上専務

topics

確定申告相談会開催

07

2月3日、本所大会議室にてJA相馬村農業青色申告会は確定申告相談会を開催した。

初日には約30人の会員が訪れ、手書きやe-tax、ソリマチでの入力方法に分かれて取り掛かっていた。当会の7名の指導員は会員に寄り添いながら丁寧に相談に乗っていた。

次第に電子申告の方が増えていくのでスムーズに送信できるように進めていきたいと、指導員一同意気込んでいた。



情報を共有しながらパソコンと向き合う会員ら